文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

清流の国　輝くギフジョ　支援プロジェクト

連続フォーラム

生活拠点としての『地方』
ー女性の「働く」を応援する大学・企業・地方自治体の役割

キャリアアップと転職

受講料 無料

●とき

2017年 10月4日（水） 16:00～18:00

●ところ

岐阜薬科大学本部 大学院講義室

講師

● **田中　里枝 氏**
京都大学　大学院医学研究科　特定研究員
理化学研究所　放射光科学総合研究センター　客員研究員

● **二村　真祐美 氏**
株式会社ボゾリサーチセンター つくば研究所　創薬研究部

主催：国立大学法人 岐阜大学　岐阜薬科大学　岐阜女子大学　アピ株式会社

会　場

岐阜薬科大学

〒501-1196 岐阜市大学西1丁目25番地4
Tel: 058-230-8100　Fax: 058-230-8105
http://www.gifu-pu.ac.jp

お問い合わせ先
岐阜薬科大学
ダイバーシティ推進室
E-mail: diversity@gifu-pu.ac.jp

演題１

仕事を続けて得られた セレンディピティー

～企業からアカデミアの道～

大学で有機化学を学び、製薬会社の研究員として研究人生がスタートした。創薬化学を究めるべく転職をしたが、結婚による退職で人生の転機を迎えた。その後しばらくして、年間予算が数億円規模の大型プロジェクトに、研究支援のトップとして関わる機会を得た。科学技術振興機構のERATO（戦略的創造研究推進事業）、内閣府のFIRST（最先端研究開発支援プログラム）、文科省の重点課題（X線自由電子レーザー重点戦略課題）などである。現在は重点課題が終了したところで、ラボマネージャーとして、X線自由電子レーザー施設「SACLA」でタンパク質の構造変化を捉える研究に取組むとともに、次世代の女性研究者や技術者を応援している。

講 師

田中　里枝

京都大学　大学院医学研究科　特定研究員
理化学研究所　放射光科学総合研究センター　客員研究員

|経|歴|

1983年に岐阜薬科大学を卒業、サントリー株式会社、科学技術振興機構などを経て、2013年4月より理化学研究所、2017年4月より現職。

演題２

窮すれば則ち変じ、 変ずれば則ち通ず

～研究を続けるためには～

大学卒業後に始まりました私の研究人生は紆余曲折がありました。製薬会社で抗がん剤開発研究に携わるという夢を実現したものの、他部署への異動、研究所の閉鎖、失業、再就職と様々なことが起きました。それぞれの困難に直面したとき、それら困難をポジティブに捉えたことが、窮地を脱して次のステップへと繋がったと思います。結果として、異動先で臨床開発品を創出したり、再就職先の試験受託会社にて、新たに創薬支援事業を立ち上げたりすることができました。自分の価値観を柔軟に見直しながらも信念を持ち続けたこと、それに加え、周囲の様々な方の支えによるところが大きかったと思います。私の経験を元に、女性研究者が研究を続けるために必要なことをお話できればと思います。

講 師

二村　真祐美

株式会社ボゾリサーチセンター つくば研究所　創薬研究部

|経|歴|

岐阜薬科大学卒業後、京都大学大学院薬学研究科修士課程修了。薬学博士。㈱万有製薬つくば研究所で17年間、創薬研究部門の癌・代謝性疾患分野にて研究員として勤務。研究所閉鎖に伴い、前臨床安全性試験受託機関である㈱ボゾリサーチセンターに転職。同社つくば研究所にて創薬支援事業を新規に立ち上げ、顧客（製薬企業、創薬ベンチャー、アカデミア他）の創薬研究開発を支援している。